

令和7年度 第5回与謝野町総合計画審議会 会議報告書（要約）

日 時 令和8年2月26日(木)19時00分～21時00分

場 所 知遊館2階研修室1～3

出席者

委員（敬称略）

足立 英子 委員	安達 幸三 委員	石倉 直記 委員	尾上 亮介 委員
川勝 健志 委員	小山 富美代 委員	○坂中 紀文 委員	◎谷口 知弘 委員
津波 璃生 委員	中田 麻由美 委員	樋口 潔 委員	味田 佳子 委員
宮本 浩司 委員	注) ◎会長、○副会長		

オブザーバー

徳田 裕之 氏

町長

山添 藤真

総合計画策定委員会、事務局等

傍聴者 なし

会議の日程

開会

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 議事
 - (1) 第3次与謝野町総合計画基本構想（素案）について
 - ① まちづくり方針について
 - ② 基本理念と将来像について
 - (2) その他
 - ① 今後のスケジュール
4. 閉会（副会長あいさつ）

会議の経過

1. 開会

○事務局（企画財政課主幹）の司会で開会した。

2. 町長あいさつ

○総合計画は、町の行政運営の指針となる大変重要な計画です。多様な意見を持つ皆様方との議論を通して練り上げていく必要があると考えています。

○第2次総合計画においては住民約3,000人のご協力をいただきましたが、今回はそれを発展させていく形で取りまとめたいと考えております。この計画が与謝野の未来を形作っていくと言っても過言ではありません。

○令和8年度予算は、町長・町議会議員選挙を控える中での骨格予算ではありますが、物価高騰対策や継続的な大型施設整備の予算を計上しており、当初予算としては過去最大の規模となりました。これも総合計画に基づく取り組みとして、議会でご審議いただくこととなります。

○本日は、特にまちづくり方針の5つの分野について、皆様の議論が深まることを期待しております。より良い方針となりますよう、ご協力をお願い申し上げます。

3. 議事

（谷口会長）

○先ほど町長から「町の未来を形づくる」という言葉がありましたが、とても良い言葉だと思います。それがまさにこの基本構想になると思います。

○今日は住民の皆様や「よさのみらい会議」の意見を集約した形で提案されています。より良いものにするため、ブラッシュアップをしていきたいと思います。

（1）第3次与謝野町総合計画基本構想（素案）について

① まちづくり方針について

○事務局（企画財政課係長）より、資料1にもとづいて説明が行われた。

○審議会委員でもある与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会委員長から、2/16に開催された同委員会における方針5の議論として

- ・公共施設のあり方を見直すことは、住民の暮らし方を考えること
- ・人口減少に伴い需要と供給のバランスが変わる中、全ての施設を更新するのは現実的ではない
- ・複数の機能を組み合わせた多目的な施設のあり方が重要
- ・これを進めるには住民の参加と協働が不可欠

などの報告があった。

○説明、報告を受け、次のような意見交換が行われた。

- ・住民にとっても、職員にとっても、住民と寄り添ったサービスができる環境、例えば「立ち寄りたくなる」ような庁舎であることが大切。
- ・宮津市の事例からも、民間施設との複合化や地域拠点化が有効である。
- ・人口減少下での持続可能性を重視し、施設の統廃合を「最適化」と捉える視点や、長く使われ陳腐化しない設計が必要。
- ・住民理解には、財政や人口減少などの現実を含む情報共有が不可欠であり、安心安全（防災・防犯）の視点も計画に具体的に反映することが必要。
- ・「挑戦」という言葉に、アクティブすぎるイメージがあるので、与謝野町にふさわしいのか疑問。「好きを支える」や「好きなことがちゃんとできる」といった、もう少し柔らかい、表現があってもいいのではないか。

○ワークショップ形式で、基本理念や将来像について意見交換を行った。

○各班の内容は全体で共有した。

【第1班】

- ・基本理念について、ひらがなを使って柔らかく表現するのが良い。
- ・「挑戦」という言葉については、やはり少し強く、勝ち負けのような意味ではなく「好きなことを好きなようにできる」という意味であれば納得できるので、言葉を選ぶ際にはその視点が必要。
- ・将来像については、「自然」と「繋がり」が住民の誇りであり、多くの場面で出てくるキーワードなので、これらは必ず入れるべき。
- ・案1をベースに、次の世代につなげていくという「持続可能性（未来）」の視点を盛り込み、もう少し語呂を整えてまとめ直してはどうか。

【第2班】

- ・基本理念の「ひらき」についてイメージがしにくい。小学生からお年寄りまでがパッと分かる言葉が良い。
- ・「挑戦」は強い言葉だが、外からの評価が高い与謝野町の良さを発信し続けるという、次のステップに進むための姿勢としては必要なのではないか。
- ・将来像については、若者が一度町を出ても「帰ってきたくなる町」であることが、10年後の未来として必要。案4をベースに、方言も交えて、親しみやすく分かりやすい形が良いのではないか。

【第3班】

- ・未来志向で考えるべき。
- ・大切にすべきキーワードは「繋がり」。また「挑戦」という言葉も未来を考える時には決して悪くないのではないか。
- ・「帰りたくなる」というフレーズは「今、町を出ていること」が前提のような響きがあり、今生活し

ている人の気持ちも含んだ表現にした方は良い。

- ・いくら良い言葉を作っても覚えられなければ意味がないので、ワンセンテンスにまとめたり、「与謝野町らしさ」や「方言」を盛り込むことで、町民に浸透する将来像にすべき。
- ・中高生でも理解できる表現にするべき。

【第4班】

- ・言葉の意味が町民の方々にどう届くかという視点が大切。
- ・「ひらき」の意味をどう解釈するか、また「挑戦」が「新しいことを何かやらなければならないという強要」に聞こえないか。そうした懸念があるならば、「共に創る」という言葉の方がふさわしいのではないか。
- ・将来像では、「繋がり」と「自然」がキーワード。自然については、単なる山や川だけでなく、人の手が加わって守られてきた美しさを表現できるとよい。

○委員から今年度を振り返り一言感想をいただいた。

- ・ワークショップ中心の計画策定は稀有な例で、素晴らしいと感じている
- ・「多目的」、「ついで」の活用が今後の施設活用の鍵と実感した
- ・議論から学びが多く、10年後の反映に期待している
- ・議論は大変だが、最後まで参加し、やり切りたい
- ・今日のワークショップのような合意形成が、町の文化になると実感した
- ・代表として使命感をもったのぞんだが、「みんな違ってみんないい」と思いながら参加できた
- ・発言に葛藤もあったが、計画への反映を楽しみにしている
- ・持続可能なためには事業見直しが必要であり、「住民の合意形成」を図りながら進めていければ
- ・町民として計画の完成を最後まで見届けたい
- ・計画作成がゴールではなく、そこからがスタートだと思っている
- ・当初は悲観的な発言もしたが、議論する中で前向きになれた、もっと良い場になれば
- ・10年後によりこの町を好きになれるよう、町の未来を作っていくという気持ちで取り組んだ
- ・学び合いの場と実感しており、町の人たちが出会えるような計画実施に繋がる予感がしている
- ・多様な意見が出てくるコンパクトさ、良い塩梅が町の魅力と改めて感じた

(2) その他

① 今後のスケジュール

○事務局（企画財政課主幹）より、資料にもとづいて説明が行われた後、質疑が行われたが、特に意見はなかった。

4. 閉会

○副会長より閉会のあいさつが行われ、閉会した。

以上